

# 授業改善

【基本的な考え】…児童一人ひとりの経験を基に、今抱えている互いの人権感覚に対する考えを相互に評価させ合い、差別される側に対する共感的能力を高めたり、これまでの自己の言動を振り返らせたりすることで、実践に向けての意欲を高める。



# 評価改善

【基本的な考え】…実践できたか、できなかったか、という目に見える外的な行為だけを捉えて評価するのではなく、その行為を決定づけた内面に目を向け、「行為」・「内面」を関連付け、ともに見極める。

## 自己評価の段階

### 【第1段階】…命令・賞罰意識

○「見られているし、叱られたり、ほめられたりするから」

### 【第2段階】…規範意識

○「教えられたし、正しいと思うから」

### 【第3段階】…奉仕意識

○「みんなのためになったり、喜んでもらえたりするから」

### 【第4段階】…自他意識

○「自分も周りの人も幸せになるから」

例えば、友達に優しく接することができた…という行為の理由として、それぞれ4段階のどこに当てはまるのかを個々に評価させる。  
行為と内面の両者を見つめる活動を継続していくことで、次第に「気づき」と「実践化」の一体化が図られる。さらに、活動毎に自己の有り様を認識し、より価値の高い段階(4段階)を目指そうとする意識が育つ。  
そして、この4段階目の人権感覚が高まった理想の状況と捉える。

## 自己評価の内容

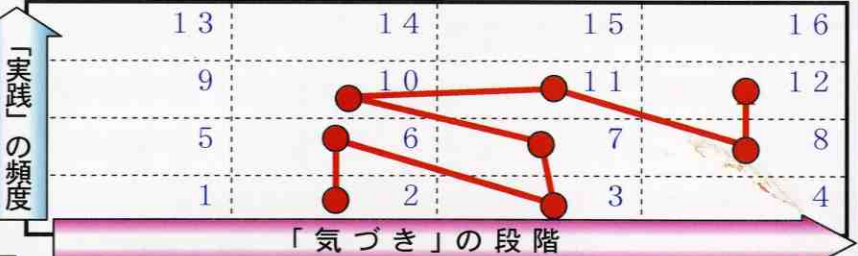
- 【冷静】…いやなことがあっても我慢できたか。
- 【対話】…相手がいやな気持ちにならないような言い方ができたか。
- 【責任】…めあてに向かって最後までがまん強くがんばれたか。
- 【共感】…周りの人が喜んでくれるようなことができたか。

## 自己評価票

### みつめカード

いつでもできる  
だいたいできる  
半分くらいできる  
時々できる

いやなことがあっても我慢できる 【冷静】



見られているし、叱られたり、ほめられたりするから  
教えられたし、正しいと思うから  
みんなのためになったり、喜んでもらえたりするから  
自分も周りの人も幸せになるから



「人権・同和教育が知的理解にとどまり、行為に結びついていない」…これが、本校においても課題であった。2006年度から2年間、文部科学省の研究指定を受けての成果の一部を整理した。自分と他者の人権を大切にしたい実践に向かう意欲と意識・スキルを身に付けることを前提に、ここでは2つの取組を紹介した。この他に、年間計画の改善、集団活動の改善、家庭との連携を含む環境の改善がある。行為も含めた人権感覚を高めるには、全ての教育課程に位置付け、意味付けながら実践していくことが重要である。